

【 59 】

氏名 庵 谷 文 夫

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1661 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和61年 6 月30日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目 体表面心臓電位図による右室梗塞の実験的検討

論 文 審 査 委 員 教授 木村郁郎 教授 太田善介 教授 寺本 滋

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

右室梗塞の梗塞範囲の定量診断の可能性について体表面心臓電位図（電位図）により犬を用いて実験的に検討した。

右室梗塞の電位図の特徴は右前胸部における，早期，中期の負領域，極小の位置，Breakthroughの消失であった。電位図で心室興奮開始16msec後の時点で右室梗塞後1.0mv以上の電位低下を認めた誘導点の総和 $\Sigma n$ ，低下した電位の総和 $\Sigma Q_{16}$ などの指標は病理組織学的に求めた梗塞の大きさと良い相関が認められ，これらの指標は梗塞範囲を定量的に推定しうると考えられた。また比較的大きな貫壁性右室梗塞の右側胸部誘導心電図の $V_{2R}-V_{5R}$ に梗塞後Q波が認められたが，電位図による詳細な検討では1-2肋間上方に誘導点を設けることにより明らかにQ波を認め，心電図で右室梗塞の診断が可能になると考えられた。

Isoproterenol 負荷前後のST，T電位図の検討より非貫壁性梗塞群と試験開胸群の鑑別が可能であり，本方法は心筋虚血の診断に有用と考えられた。

## 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は体表面心臓電位図による右室梗塞所見について犬を用い実験的に研究したものであるが，従来十分確立されていなかった梗塞範囲の定量診断の可能性に対して梗塞後の電位図における電位低下を認めた誘導点の総和とか，低下した電位の総和などの指標は梗塞の大きさと相関が認められ，重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。